

## ② 農作物被害状況

### a) 防鹿柵設置前と比較した被害傾向

防鹿柵設置前と比べ、シカの侵入はあるものの、被害がある程度軽減されたとのことであった。

① に記載した侵入があり被害を完全に防止できておらず、今後の課題となる。

また、昨年イノシシによるあぜ道の掘り返しがあったとのことから、今後、イノシシ対策が必要になる可能性がある。

### b) 被害時期

R05-1 では水田が多数を占め、防鹿柵設置前と同様、6月の分けつ期及び9～10月の収穫期に被害が発生していた。

### ii) 被害程度

被害程度は、防鹿柵設置前と比べある程度減ったと感じていた。数量については、体感としてシカの被害がない時の収量を10としたとき、9以上は収量が確保できたということであった。

## ③ 農業被害対策

### a) 対策のメンテナンス頻度

対策のメンテナンスは、水路等の見回りの度、最低月1回点検を行っていた。

### b) 対策の満足度

対策については、概ね満足しているということであったが、入口からの侵入については課題を感じていた。

### c) 対策の課題

現地確認及びヒアリングの結果、農業被害対策の課題として、以下の課題があげられた。

#### ① 入口ネットからの侵入

R05-1では、入口ネットの潜り込みによる侵入が多かった。入口ネット下部に鉄筋等の重量物を追加施工することや、ネットを2重にすることによる侵入防止効果について説明した。

### d) 防鹿柵以外の被害対策

R05-1は令和6年度以降、柵の追加設置を行う予定であり、農地を囲う形になっていない。このため、農家による自衛のネット柵が設置されていた。

## 2) R05-2

### ① シカによる被害等の現地確認

シカによる被害等の現地確認結果を図 14 に示す。R05-2 においては破損や侵入箇所の痕跡は確認されなかった。一方、R04-1 において、8 月の現地確認では、1 箇所において防鹿柵の破損、2 箇所においてシカの侵入痕跡を確認した。10 月の現地確認時にはそれらの侵入箇所の追加対策が実施済みであった。10 月時点でも、赤丸部分においてシカの掘り返し痕等が確認された。

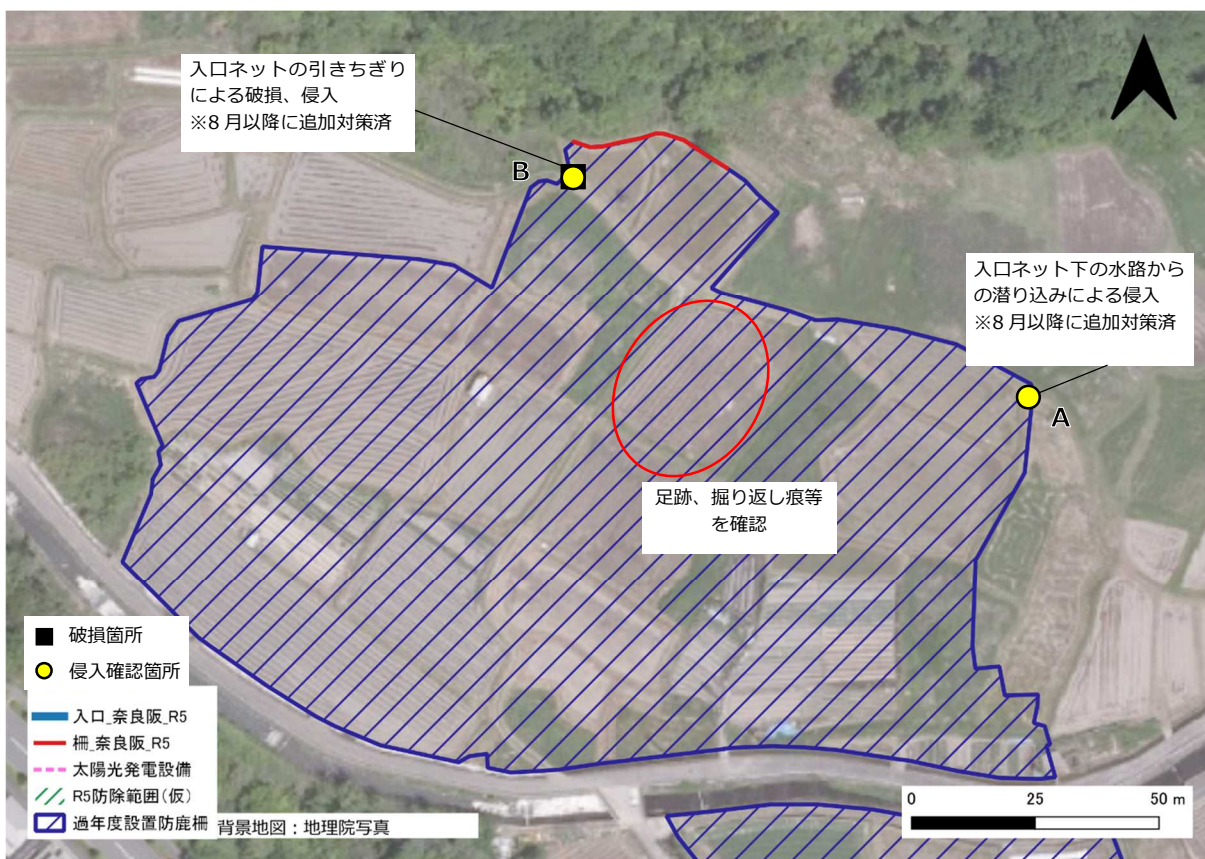


図 14 シカによる被害等の現地確認結果 (R05-2)

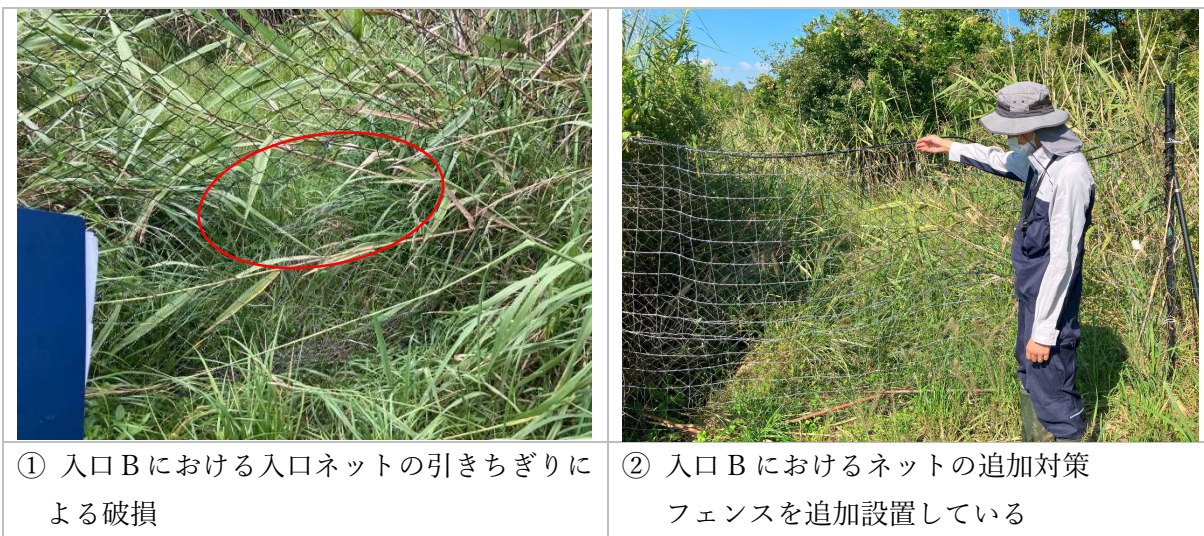
a) 防鹿柵の破損状況

R05-2 では、破損が見られなかった。R04-1 においては、表 8 に示す防鹿柵の破損を確認した。これらは 10 月の現地確認時には追加対策済みであった。

表 8 破損内容一覧 (R04-1) ※R05-1 では破損なし

No.	場所	破損内容	写真
1	入口 B	入口ネットの引きちぎりによる破損 ※8 月以降に追加対策済	写真 3 ①、②

写真 3 確認された破損状況 (R05-2)



① 入口 B における入口ネットの引きちぎりによる破損

② 入口 B におけるネットの追加対策フェンスを追加設置している

b) 防鹿柵内への侵入状況

防鹿柵設置後、下記 2 箇所におけるシカの侵入及び脱出痕跡を確認した。

表 9 侵入内容一覧 (R04-2)

No.	場所	破損内容	写真
1	入口 A	入口ネット下の水路からの潜り込みによる侵入 ※8 月以降に追加対策済	写真 4 ①
2	入口 B	入口ネットの引きちぎりによる破損箇所からの侵入 ※8 月以降に追加対策済	写真 3 ①、②

写真 4 防鹿柵内への侵入/脱出状況 (R05-2)



## ② 農作物被害状況

### a) 防鹿柵設置前と比較した被害傾向

防鹿柵設置前と比べ、シカの侵入と被害はあったが、農作物の収穫量が増えたと感じていた。防鹿柵設置後も①で示した通り、シカの侵入があり被害を完全に防止できておらず、今後の課題となる。

### b) 被害時期

R05-2 では水稲を耕作している。R04-1 設置後、継続的にシカの侵入が見られ、防鹿柵設置前と同様、6月の分けつ期及び9～10月の収穫期に被害が発生していた。

### c) 被害程度

被害程度は、防鹿柵設置前と比べある程度減ったと感じていた。数量については、体感としてシカの被害がない時の収量を10としたとき、9以上は収量が確保できたということであった。

## ③ 農業被害対策

### a) 対策のメンテナンス頻度

対策のメンテナンスは、水路等の見回りの度、最低週1回に点検を行っていた。この他、農家複数名で一斉に点検を行っていた。

### b) 対策の満足度

対策については、満足しているということであった。

### c) 対策の課題

現地確認及びヒアリングの結果、農業被害対策の課題として、以下の課題があげられた。

## 【現地確認から得られた課題】

### ① 入口ネットからの侵入

R05-2 施工箇所では、柵の破損及びシカの侵入は見られなかったが、R04-1 においてネット下部からの潜り込み、ネットの引きちぎりが確認された。ネット下の水路からの潜り込みについては、耕作者によりネット下にワイヤーメッシュ等を置くことを提案した。ネットの引きちぎり箇所については、穴を塞ぐとともにフェンスを追加施工していた。

## d) 防鹿柵以外の被害対策

防鹿柵以外の被害対策は特にしていないということであった。

## 2) 地域（町内）における農作物被害傾向

地域（町内）における農作物被害傾向は、防鹿柵内外で継続して発生しているという。防鹿柵を設置することで柵内における被害はある程度低減するが、柵外での被害は継続するので、防鹿柵を設置していない耕作者からの印象が悪くなるかもしれないと懸念を抱いていた。防鹿柵の設置を拡大するのと並行して、地域に生息するシカを捕獲してほしいという意見が出た。

## (4) まとめ

### 【防鹿柵の被害低減効果】

令和 5 年度設置防鹿柵の設置により、耕作地周辺の山林、ササ藪からのシカの侵入を防ぎ、農業被害低減を期待した。その結果、一部にシカの侵入が見られたものの、農作物の収量が改善し、被害及び被害意識を軽減することができたと考えられる。ただし、入口ネットからの箇所からの侵入を許しており、本来期待している防除効果には至っていないと考えられる。

また、耕作者自身の防鹿柵維持管理意識が高く、追加対策を自身で実施する意思が確認された。

### 【防鹿柵設置上の課題】

令和 5 年度設置防鹿柵は、フェンスの押し倒し、入口ネットの引きちぎり、ネット下部からの侵入があった。必要に応じて、ネットを重ねて設置する等の付加対策を実施することや、今後設置する入口については資材の変更等が必要となる可能性がある。